

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	特定非営利活動法人 おりざの家	
代表者名	佐藤 宏美	
連絡先	TEL : 022-249-1625 FAX : 022-247-1405	E-mail : orizanoie@yahoo.co.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	地域の居場所「おりざの食卓」～孤食や生活困窮家庭の子供を中心とした多世代夕食支援事業～
事業の目的	<p>特定「非営利活動法人「おりざの家」活動目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育」を通じた健全な体と心の育成 ・「食」を通し「命の尊さ」を伝える ・基本的な活動週刊（掃除・洗濯・炊事）を身に付け「生きる力」を育成 ・家族のコミュニケーション作りに寄与
事業の具体的内容	<p>[この助成金で実施すること]（具体的活動内容）</p> <p>「おりざの食卓」活動目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが人間性豊かな大人として成長すること。 ・世代による違いを認識し、多世代と連帯すること。 ・顔の見える関係の構築による相互扶助機能の強化 ・地域全体の福祉力の向上。 <p>[事業を実施してめざす成果]（目的・ねらい）</p> <p>取り組み内容</p> <p>対 象：生活困窮家庭や一人親家庭、共働き家庭の子供とその保護者また、地域との繋がりが希薄な一人暮らしの高齢者及び中間層世代</p> <p>場 所：特定非営利活動法人おりざの家（太白区長町）</p> <p>実施日：毎週木・金曜日 16:00～19:30</p> <p>定 員：一開催30名 *原則事前申し込み</p> <p>費 用：子ども：無料 大人：300円</p> <p>内 容：①食を通じた地域の居場所 ②学習支援 ③相談業務</p> <p>夕食の食卓を共に囲むことにより、顔の見える関係の構築。</p>

<p>活動の開始から完了までの流れ</p>	<p>2019年</p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おりざの食卓開催日 6回 ※行事食 端午の節句(5/5) ・おりざの食卓定例会・ボランティア通信発行・ぬいっこの会（毎週木曜日） ・事務局会議・メニュー会議 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おりざの食卓開催日 8回 ・理事会・ぬいっこの会（毎週木曜日）・事務局会議・メニュー会議 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おりざの食卓開催日 8回 参加人数 別紙 ・総会・おりざの食卓定例会・ボランティア通信発行 ・ぬいっこの会（毎週木曜日）・事務局会議 ・メニュー会議 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おりざの食卓開催日 8回 ※行事食 七夕流しそうめん ・寄付者総会・七夕飾り作り・ぬいっこの会（毎週木曜日） ・事務局会議・メニュー会議 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おりざの食卓開催日 8回 ・おりざの食卓定例会・ボランティア通信発行 ・ぬいっこの会（毎週木曜日）・事務局会議・メニュー会議 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おりざの食卓開催日 8回 参加人数 別紙 ・ぬいっこの会（毎週木曜日）・事務局会議・メニュー会議
<p>活動の成果と教訓</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の提供を通じ、好き嫌いがあっても皆で食卓を囲むことの楽しさ、食への感謝を持って極力残さず食卓へ参加頂いた。食事のマナー、片付けが出来るようになった。宿題が習慣化され家でもその効果が現れていると報告があった。 ・多世代、障害者との交流を通じ、ボランティア、児童、高齢者、障害者、健常者、それぞれがお互いを理解しあい自然なコミュニケーションが取れるようになった。さらに各自が存在意義を感られるようになった。このことから、食卓での時間と空間が参加者の居場所となった。 ・週に2回という定期的、継続的な開催により、お互いの信頼関係が構築され、保護者の精神的な負担の軽減になった。 ・顔の見える関係から、地域でも挨拶を交わすなど、食卓以外でのコミュニケーションが形成された。 ・児童にとっては、学生（高校・大学）ボランティアの存在がロールモデルとなり自分の将来を描く良い機会となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとっては、健康的な食事が取れること、子どもから元気をもたらすことで、前向きで張りのある生活へと変化している。 ・個別の相談を受けた際、関係機関との連携により迅速に対応する事ができた <p>【教訓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の狭さが喫緊の課題であり、現在改善に向けて検討中である。 ・調理ボランティアの長時間拘束が、年配のボランティアさんには体力的に厳しいとの意見があり、新しいボランティアの増員確保も課題である。
今後の展望など	<p>食事・会話・遊びを通じて、多様な人とのかかわりが、人と信頼を育み、自立心が養われてきていると思う。今後も事業目的に沿った活動を継続していきたい。</p>

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	200,000円	
合計	200,000円	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
食材費	4・6・7・8月開催分	200,000	180,367
通信費	はがき、切手 4月～7月分	30,000	32,674
合計		230,000	213,041

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

① 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

② 領収書のコピー (郵送)

③ 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)

*写真は郵送とメールで送ってください。



(テレビ取材)



(流しそうめん)



(食卓メニュー)



(子どもたちと食事作成)



(寄付者総会)